

# 世界に認められる、日本の“磨き”クォリティ

パリモーターショーで、  
展示車を磨く  
カービューティーマックスを発見!

「モーターショーで仕事をするようになったのは5〜6年くらい前のフランクフルト・ショーからです。その時は日本のメーカーのクルマを磨きに来たんですが、その2年後のショーから海外のメーカーからも頼まれるようになり、今は大きなモーターショーはほとんどすべて出張して磨いていますね」と語ってくれたのは同ショップの友成社長だ。

フェラーリUSAアベルタを磨く友成社長。数あるモーターショー出展車の中でも極めて注目度の高いクルマだけに、最高の美しさが求められる。

## CHAPTER 3



モーターショーで展示されるクルマのボディは、美しく輝いていることが求められる。多くの来場者が眺め、そして全世界のマスコミ関係者が写真や動画を撮りにくるのだから、当然だ。もちろんパリモーターショーでも、閉館後や開館前はあちこちでクルマを磨くスタッフの姿が見られる。そんな中、展示車を磨いている日本人を発見した。

彼らは、大阪の「カービューティーマックス」のスタッフ。メーカーからの依頼で、日本からショーカーを磨きにやってきたのだという。

今回のパリモーターショーでは、フェラーリ、ランボルギーニ、ベントレー、BMWなどのクルマを3人のスタッフで磨いているという。それにしても、遠い日本からわざわざ呼ばれるとは、よほどその技術が評価されているのでは、と聞く。「どうなんでしょうね。でも、ヨーロッパとかではクルマ磨きというのはやはり地位が低い人の仕事、というのがあるようですね。だからスタッフの意識も低い。そんな中で、我々の仕事ぶりが評価されているのかもしれない」

日本人の丁寧な仕事と優れた技術が、海外で評価されるのは、やはりうれしいこと。2年後のパリモーターショーでも、クルマを磨く「カービューティーマックス」スタッフの姿が見られるに違いない。

ランボルギーニ・セスト・エレメントはマット塗装。「マットは手アカが付きやすいので、大変なんです」だそうです。



作業終了後、フェラーリのスタッフからお礼を述べられる。「次回も頼むよ」と言っているに違いない……!?